



はとの子だより

No. 10 令和4年12月23日(金)発行

学校教育目標 自律 のびのび きびきび わくわく

子どもたちに学びを委ねる



「どうする?」「うーん…」というつぶやきが聞こえてきそうな表情で、二人の3年生が思案を重ねています。

通町商店街のお店から感じた「いいね!」をランキング形式で整理したのですが、他のグループと内容や順位が異なったため、意見調整に悩んでいるようです。

何しろ、見学やインタビューに応じてくださった御礼に、「いいね!」を表現した宣伝ポスターを制作する、という目的があります。ランキングの結果は、

そのままポスターに表現する内容の優先順位に反映されます。お店の方々に喜んでもらえるようなポスターをつくるために、「本気」になって考えているのです。

4年生は、図工室の掃除の仕方を改善するための工夫について、学級会で話し合っています。

掃除を始める時間や人数を多めに割くポイント、人の動きなど、掃除のシステムを改善する工夫が次々と提案されては淘汰されたり統合されたりしていきました。

「清掃の様子をタブレットで撮影する」という提案に対し、「監視されているみたい」と反対意見が出ましたが、「結果を確認するには役立つ」とプラスの側面が強調されて却下されなかった場面からは、子どもたちのしなやかな思考力がうかがえました。



はとの子ホールにたくさんの英語がこだましました。

6年生が自分たちで計画して出店し販売する活動を、全て英語でやりとりしながら行ったのです。買い物客に選ばれたのは、ちょうど同じような活動を行った経験のある5年生です。

挨拶や値段の質問だけでなく、値切りの交渉や自分の懐具合の説明など、その場面に必要な英語を必死になって考える5年生の願いに応えようと、6年生も「本気」で店を切り盛りしていました。

売り上げが目標額に達したことや、お勧めの商品を完売できたことなど、様々な視点から達成感を味わっ

ていました。

二学期の終わりを迎えるに当たって、学びの主導権がだんだんと子どもに委ねられてきたことを実感しています。任せられた子どもたちの「本気」が、教室の至る所で交錯し響き合っています。

一人一人がひいきされる学びに ～タブレット端末の活用～

タブレット上のホワイトボードに、複数の子どもたちが一斉に書き込みができるアプリケーションを導入してみました。

フリーハンドで思い思いに図や記号を書き込む子ども、別のアプリケーションで表を作成して貼り付ける子ども、理科実験の結果を撮影して画像を貼り付ける子どもなど、初めて使ったとは思えないほど活用方法が多様でした。

ICTの活用という、A I ドリルに代表されるように、どちらかといえば個に閉じた学習空間がイメージされがちです。

しかし、仲間と協働して学ぶ道具としてタブレットを取り入れることで、自分にふさわしい方法で考えを見える化し、その正誤や適否などを仲間と議論しながら、集団としての成果を導き出すことができます。自分らしさを表現しながら仲間と協力するための道具としてICT機器を活用することで、本校が目指す「自律した学習者」の実現により一層近付くことができそうです。

本校は、ICT環境においても一人一人の学びやすさを大切に、誰もがひいきされるようになることを目指していきたいと考えています。



福島市教員視察



福島市の小・中学校の先生方5名が、本校の研究推進の状況を視察するためにご来校されました。他県の視察団を受け入れるのは久しぶりです。道徳の授業を参観いただいた後、研究主任が本校の特色ある研究について説明し、質疑応答を行いました。「子ども自身が学習の目標を設定することに驚いた」「表現力が育っており、協働して学ぶ力が高い」など、たくさん感想をいただきました。

読売新聞社賞 受賞！



4年C組の高橋蘭さんが、第72回全国小・中学校作文コンクールの中央審査で、読売新聞社賞に輝きました。これは文部科学大臣賞に次ぐ栄誉です。ゴミの排出量を減らすための手段を考えた作文での受賞でした。おめでとうございます。

新任の先生の紹介

11月中旬から、1年部に新任の高橋勲先生をお迎えしています。国語や算数の授業を中心に指導してくださる他、ICTを活用した授業づくりにも詳しいことから、タブレット端末をより一層活用した授業環境づくりにもご活躍いただいています。



村井雅豊さんご提供
「若松」

1月16日(月)にまた元気な子どもたちと会える日を楽しみにしています。よいお年をお迎えください。